

## 「現在の看護師に道を拓いた人 (She paved the way for today's nurses)」

<https://time.com/newsletter/history/>

今日ほど、公衆衛生と医療において看護師が重要な時代はない。しかし、この専門職は、いつもきちんと敬意を払われてきたわけではない。今週は(5月14日の記事)、看護師が、パンデミック(世界的大流行)となったコロナウイルスとの闘いの第一線で働き続けていることが認められるべく道筋をつけて女性の生誕200年目にあたる。その人とは、フローレンス・ナイチンゲールだ。フローレンス・ナイチンゲール財団のCEOは、Time誌のSuyin Haynesにこう云った。「フローレンスは、現在の、このパンデミックにあって、その第一線で看護師がなしていることを知ったら、きっと誇らしく思うでしょう」。

以下Suyin Haynesによる。「フローレンス・ナイチンゲールが現在の看護師の英雄的仕事への道を開いた方法」[https://time.com/5835150/florence-nightingale-legacy-nurses/?utm\\_source=newsletter&utm\\_medium=email&utm\\_campaign=history&utm\\_content=20200515&xid=newsletter-history](https://time.com/5835150/florence-nightingale-legacy-nurses/?utm_source=newsletter&utm_medium=email&utm_campaign=history&utm_content=20200515&xid=newsletter-history)

グレタ・ウェストウッドは4歳の時、ビクトリア朝(1837~1901年のビクトリア女王の御代、大英帝国の絶頂期とされる)時代の看護師フローレンス・ナイチンゲールについて書かれた子ども向けの本を読んだ。数十年後も、なお、「ランプをもった女性“Lady with the Lamp (ナイチンゲールがクリミア戦争時のスクタリの病院で、夜な夜なランプをもって傷病者を見回った)”」による長く続く感動を覚えている。ウェストウッド自身、1978年、整形外科の学生看護師としなり、その後は立派な看護経歴を持つに至った。「制服を着たその日から、私は決して後ろを振り返ることはなかった」と思い起こす。

ウェストウッドは、約40年後の2017年、英国国立保健局を引退したが、コロナウイルス危機が広まった英国の公衆衛生活動支援のため、イングランド南部ポーツマスにある地域病院に復帰した。忙しい月曜日の朝、病院からTIME誌と交流したウッドウェストは、過去6週間、COVID-19の患者を看ている看護師や助産師のための心理サポートを行っていると話した。

暗闇の中、ランプの光で、負傷した兵士を看まわるナイチンゲールのイメージによって、実に多数の看護師が長い間、仕事を耐えてきた。今年の5月12日は、そのナイチンゲールの生誕200周年であり、新たな意味を帯びている。また、この日は、ナイチンゲールの名誉を記念する国際看護師の日である。現在のパンデミックの最前線では、世界中で、看護師が活躍しているが、彼らとともに、ナイチンゲールの遺産が、どのように、今日の病院における英雄的任務の土台を築いたかを考えることは感動的だ。「それこそが、彼女の為した先駆的役割で、私はそこが好きのだ」と、フローレンス・ナイチンゲール財団のCEOでもあるウェストウッドは云う。「彼女は決してNOとは云わなかった、どんなことでも可能だったから。」

ナイチンゲールは1820年5月12日、裕福なイギリス人夫妻の新婚旅行中のイタリアで生まれ、イギリスで育った。10代のとき、病人や貧困者を助けよと勧める神の声をきいたと信じ、当時、立派な専門職と見なされていなかった看護師になりたいとの強い願望をもった。それに、ビクトリア朝の社会慣習では、女性は家に留まり家事を行うものとされており、外の仕事をすることは期待されていなかった。で、ナイチンゲールは、他人のケアをする仕事を妨げると思ったため、沢山のプロポーザルを断った。上流階級の出自を考えると、彼女の考えは特に物議を醸すものだった。家族が認めないまま、彼女は芸術と科学を勉強し、最終的には、ドイツのルーテル派僧院が経営する貧困者のための施設で看護経験を得た。

1854年3月、英国は対ロシア同盟の一員としてクリミア戦争に突入した。負傷者を収容する病院の悲惨な状態を、新聞が詳しく報道したことで、国内では、国民の抗議に直面したシドニー・ハーバート戦争大臣は、同

年 11 月、ナイチンゲールの指揮下に、38 人のボランティア看護師のスクタリ(現在のトルコ内)の軍事病院に派遣し、負傷した兵士が最前線からの帰国を支援した。

ナイチンゲールのチームはすぐに悪夢のような状況に直面した。兵士は、戦傷でなくなるよりチフス、腸チフス、コレラ、赤痢で命を失う方が多く、病棟は過密状態で、ネズミとシラミが蔓延していた。

ロンドンのナイチンゲール博物館館長のデイビッド・グリーンは、次のようにいう。「そこは汚さで云えば最悪だった。が、彼女は最後まで踏みとどまり、将校だけでなく、一般兵士の面倒もしっかりみた。」グリーンは云う、ナイチンゲールの思いやりの深さは他の人とは違う、彼女はランプの灯りで患者を看まわったことで有名な名称=ランプのレディを得たが、時には、兵士のために、祖国の愛する人に手紙を書いてやった。当時は、兵士が殺されたときでも、必ずしも軍は家族に通知していたわけではないが、ナイチンゲールはそうすることを義務だと思った。患者だけでなく家族に関する義務の意味は、看護師が最後の時まで患者と共にあって、iPad を通じて親戚や愛する人と交流することを助けている、現在の COVID-19 危機に際して十分示されている。「それこそ真のナイチンゲールであり、その想いは本当に家に家庭に通じる」とグリーンは云う。

スクタリでナイチンゲールが経験した時間は、彼女が後に開発したいいくつかのイノベーションの基になった。施設の男性医師は、ナイチンゲールの提案を批判とみなしたが、彼女は断固としてやり遂げたのは、リネンやタオルの洗濯炊事場用品の購入、当時、あまり実践されていなかった石鹼と水を使った手洗いの強化などを通じて、病院の清潔と衛生状態改善を進めた。しかし、ナイチンゲールが衛生問題よりも栄養と食料補給が主問題だと誤信していたため、1855 年まで、病院死亡率は増えた。が、衛生委員会が、病院は下水の上に建てられており、供給される水が汚染されていたため、病氣蔓延を助長していたことを見つけた。

ナイチンゲールは、十分、経験から学んだ後、1856 年、英国に帰った。後年、彼女は衛生的健康のチャンピオン音となり、国内での英雄的立場を固めた。

人生の次の 50 年間、彼女は看護が尊敬されるべき職業として確立することを優先した。1859 年に発汗された彼女の「看護に関するノート」は、現在でも、先駆的テキストと見なされており、一般の家庭で nursing(世話/看護)する女性にも理解できるようにと平易な言葉で書かれている。戦争から帰った後、彼女がした最初の仕事は、1860 年に、世界で初めての看護師のための学校を設立することで、その施設は今も活動している。「看護について、どの看護師と話しても、誰も患者のために最善を尽くすためだという。クリミアから戻ったときでさえ、それからの年月を通じて、それが人生における彼女の目的だった」とウェストウッドは云う。

1857 年以降、うつ病と戦い、断続的に寝たきりになったにも関わらず、ナイチンゲールは公衆衛生と職場の改革を訴える何千もの手紙を書き、ビクトリア女王や著名な政治家とのネットワークに影響力を発揮した。クリミアでの経験から、効率的な病院計画とその設計についても学んだ。シドニーからニューヨークに至るまで、世界中の他の病院とも連携しながら、彼女はその知識と学校で訓練を受けた「ナイチンゲールナース」という人的資源を共有活用した。

重要なことは、ナイチンゲールは、クリミアの戦場での感染と死亡率の関係を示すダイアグラムを使用して理解しやすい証拠と統計、視覚化したデータを用いてキャンペーンをバックアップした。「彼女は最初に円グラフを使い出した人だ」と、その時代と現在のデータについての一般の人々の理解度を比較してウェストウッドは云う。「今日、首相や医療の最高責任者が、コロナウイルスについて説明する際、データはインフォグラフィック化されている。ナイチンゲールは、データを明確かつ疑いのないものとして示さない限り、人々は理解しないだろうことをわかっていた。」

ナイチンゲールの遺徳は 2 世紀後の今日まで続いているが、最前線の看護師には最も深刻な時期であり、

その功績のために作られたが現在閉鎖中の博物館は財政的課題を抱えているという時期に、生誕 200 周年を迎えた。「周りのものは何でも彼女を思い出させるが、英国の多くの野戦病院がその名前を付けているのは皮肉だ」と、その遺徳のために捧げられた約 3,000 の制作物を所有しているフローレンス・ナイチンゲール博物館のグリーンは云う。

1934 年設立のフローレンス・ナイチンゲール財団は、その遺徳を記憶し、奨学金プログラムで看護師や助産師を積極的に支援している。ナイチンゲールの誕生日を記念する例年の記念行事は、現在のロックダウン（都市閉鎖）で中止している。曾祖母ジョアンナがナイチンゲールの叔母であった王冠俳優ヘレナ・ボーンム・カーターの支援を受けて、財団は、フロレンス・ナイチンゲール・ホワイトローズアッピールを開始し、世界中の人が、得 e-ローズを購入することで、第一線で活躍している看護師を支援できる。ロックダウンが終了したら、ロンドンのウェストminster 寺院で、実際のバラのディスプレイを行い、世界中の看護師や助産師の貢献を祝いたい。

ウェストウッドが思っていたのとは相当異なる 200 周年だが、その人は決して困難から逃げなかった。「沢山の看護師が亡くなっており悲しさもあるし、それを忘れてはならないので、お祝いとは、今、ちょっとあわない云い方だ。」とウェストウッドは云う。「しかし、フロレンスは、今のパンデミックで、看護師が何を成し遂げたかをとても誇りに思うだろう。」